12/15（月）

この宝を土の器の中に

私たちは、この宝を土の器に納めています。計り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかになるためです。（7）

コリントの信徒への手紙Ⅱ四章7～18節

宝のように輝く福音に比べれば、自分は「土の器」に過ぎないとパウロは語ります。「土の器」とは、もろくて壊れやすく、価値のないものを意味します。パウロは自分を卑下しているのでも、謙遜ぶっているのでもありません。信仰者としての弱さを徹底的に知らされたパウロは、もはや語るに値する自己などありませんでした。むしろパウロの驚きは、こんな弱い自分を宝としての福音が力強く生かしてくれているという事実でした。「四方から苦難を受けても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず」（8）。それはこの土の器の中にキリストという宝を持っているからです。キリストの福音が、内側からパウロを生かし続けていたのです。土の器に過ぎない私たちですが、私たちもパウロと共に喜ぼうではありませんか。「私たちは、この宝を土の器の中に納めています」と。